

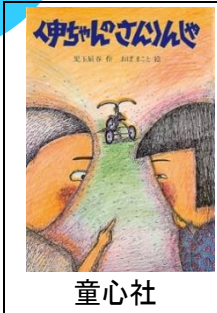
# コープみえ絵本で平和のバトンパス

～絵本でつなぐ、想いをつなぐ、未来につなぐ～



★絵本 貸し出します★ ※詳細は最終ページをご覧ください。

 <p><b>秋</b> 作:かこ さとし テーマは、かこさんが終生、憎んでいた「戦争」。太平洋戦争のとき、高校生だったかこさんが体験した実話。平和を願う強い思いが込められています。</p> <p>講談社</p>	 <p><b>あなたこそ たからもの</b> 作:いとうまこと 絵:たるいしまこ 憲法の伝道師として活躍する著者が、憲法の大切な精神を平易な言葉で語りかける初めての憲法絵本。「個人の尊重」って何だろう…親子で読みたい憲法の入門書。</p> <p>大月書店</p>
 <p><b>いわたくんちのおばあちゃん</b> 作:天野 夏美 絵:はまの ゆか 実話。おばあちゃんはなぜ家族写真を撮るのを嫌がるのか…それは悲しい思い出がよみがえるから…4年生の男の子の目を通して平和と家族の尊さを描く1冊の本。</p> <p>主婦の友社</p>	 <p><b>子どもにつたえる日本国憲法</b> 作:井上ひさし 絵:いわさきちひろ 「憲法ってなあに？」憲法のこころを絵本とお話で…こどもにもわかりやすい言葉で伝えます。</p> <p>講談社</p>
 <p><b>おかあさんのいのり</b> 作:武鹿 悦子 絵:江頭 路子 その手がどうか銃など にぎりませんように…。我が子への愛情と平和への願いを綴ったお母さんの祈りを描いた絵本。</p> <p>岩崎書店</p>	 <p><b>かわいそうなぞう</b> 作:つちやゆきお 絵:たけべもといちろう 戦時中、上野動物園で3頭のゾウが殺されました。本当にあった悲しいお話をもとにした絵本。</p> <p>金の星社</p>
 <p><b>ここが家だ</b> ベン・シャーン 作:アーサー・ビナード 絵:ベン・シャーン 1954年3月、ビキニ環礁での水爆実験の犠牲となった第五福竜丸乗組員の話。</p> <p>集英社</p>	 <p><b>この本をかくして</b> 作:マーガレット・ワイルド 絵:フレイヤ・ブラックウッド 訳:アーサー・ビナード 本当に大切なものは何者にも負けない…。戦争によって失われる大切なものについて描いた一冊。</p> <p>岩崎書店</p>
 <p><b>さがしています</b> 作:アーサー・ビナード 写真:岡倉禎志 ピカドンを体験したカタリベたちは、さがしています—たいせつな人びとを、未来につづく道を。ヒロシマから今をみつめる写真絵本。</p> <p>童心社</p>	 <p><b>さくら</b> 作:田畑 精一 桜の花咲く春に生まれたぼく。その年に侵略戦争が始まり、ぼくも桜の花のように散れ、散れと教えられます…。大人になったぼくに、桜の老木が語りかけます。桜とぼくの物語。</p> <p>童心社</p>



**伸ちゃんのさんりんしゃ**  
 作:児玉 辰春 絵:おぼ まこと  
 一人の少年が三輪車とともに原爆にあい、ささやかな日常の幸せが一瞬のうちに奪われました。原爆の残酷さを物語る。三輪車は広島平和記念資料館に保管されています。

童心社



**字のないはがき**  
 作:角田 光代 絵:西 加奈子  
 原作:向田 邦子  
 戦争中の、向田さん一家のちいさな妹と、いつも怖いお父さんのエピソードを綴った感動の実話。こどもと語り合ってほしい作品。

小学館



**戦火のなかの子どもたち**  
 作:岩崎 ちひろ  
 ベトナムで死んでいった子どもたち、生きぬいてきた子どもたちへの熱い思いをこめた異色の反戦絵本。生命の大切さを伝える岩崎ちひろさん最後の絵本。

岩崎書店



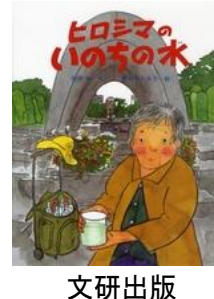
**せんそうしない**  
 作:たにかわしゅんたろう  
 絵:えがしら みちこ  
 谷川俊太郎の言葉で語られる戦争への思い、江頭路子の絵の透明な生命力。人間の知恵はどこにあるのかを、静かに問いかける絵本。

講談社



**トビウオのぼうやはびょうきです**  
 作:いぬいとみこ 絵:津田 櫓冬  
 サンゴ礁の美しい平和な海を、おそった恐ろしい光。被害者は人間だけではないのです。第五福竜丸の悲劇を知った著者が平和をこめ描いた絵本。

金の星社



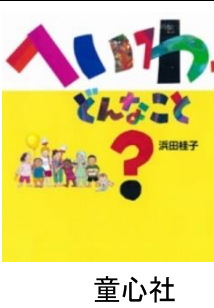
**ヒロシマのいのちの水**  
 作:指田 和 絵:野村 たかあき  
 広島で保母さんをしていた宇根さん。被爆して水を求める人に、「すぐ持ってきてあげる」と約束したのに、それを守ることはできませんでした。戦後10年が過ぎ…。

文研出版



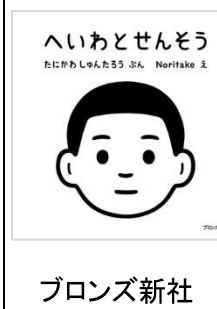
**へいわってすてきだね**  
 作:安里有生 絵:長谷川 義史  
 へいわってなにか。ぼくは、かんがえたよ。ねこがわらう。おなかがいっぱい…。ずっとへいわがつづきますように…。小さいお子さんにもわかりやすい言葉で伝えます。

ブロンズ新社



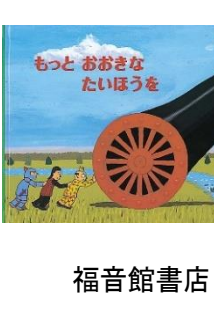
**へいわってどんなこと?**  
 作:浜田 桂子  
 へいわってどんなこと?きつとね、へいわってこんなこと…。いろいろな視点から平和を考え、平和の意味を問い返します…。

童心社



**へいわとせんそう**  
 作:たにかわしゅんたろう  
 絵:Noritake  
 「へいわのボク」と「せんそうのボク」では、なにが変わるのだろう。平和と戦争のちがいは…。いま、子どもにも大人にも伝えたいメッセージ。

ブロンズ新社



**もっとおおきなたいほうを**  
 作:二見 正直  
 王様は川で魚をとっていた狐を、大砲をうって追い払いましたが、狐はもっと大きな大砲をもってきました。こうして王様と狐の大砲くらべがはじまります…。

福音館書店



**いのりの石**  
 文:こやま 峰子  
 絵:塚本 やすし  
 広島電鉄の敷石が、原爆体験を通し、ひろしま祈りの石として平和希求のシンボルになるまでを描きます。

フレーベル館




**おひさまとおつきさまのけんか**  
 作・絵:せなけいこ  
 ある日、けんかをしたおひさまと、おつきさま。ふたりの仲はどんどんわるくなり…。戦争について、ストレートに問いかけます。

ポプラ社






**くつがいく**  
作:和歌山 静子

兵隊たちに履かれて戦場に行った靴の運命を描きながら、戦争の本当のすがたと平和の大切さを伝えます。


童心社



**原爆の火**  
作:岩崎 京子  
絵:毛利 まさみち

1人の兵士が原爆の残り火をふるさとに持ち帰り、激しい怒りと憎しみの思いで、絶やすことなく灯し続けます…。


新日本出版社



**けんぼう絵本 おりとライオン**  
作:椋 大樹 絵:今井 ヨージ

子どもたちにも自分には人権があって、それをないがしろにされないように、憲法が守ってくれていることがわかります。


かがわ出版



**せかいでいちばんつよい国**  
作:デビッド・マッキー  
訳:なかがわ ちひろ

世界中の人びとを幸せするために世界中を征服した、ある大きな国の大統領のお話をユーモアに描きます。

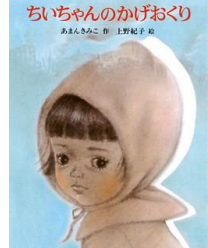
光村教育図書



**だれのこどももこささせない**  
文:西郷 南海子 絵:浜田 桂子

「きょうのよる、せんそうにならない？」とのわが子の言葉から生まれた絵本。戦争の不安に怯えるわが子に読んで安心させたいという母親の願いを伝える。

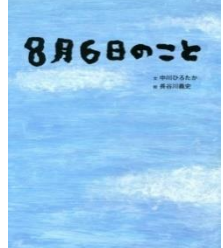
かがわ出版



**ちいちゃんのかげおくり**  
作:あまん きみこ 絵:上野 紀子

ちいちゃんとおにいちゃん、おかあさん、おとうさんは「かげおくり」をします。翌日、おとうさんは戦争へ。家族3人の暮らしが始まった夏、ちいちゃんは空襲に遭います。

あかね書房



**8月6日のこと**  
作:中川 ひろたか  
絵:長谷川 義史

広島原爆で亡くなった作者の伯父、被爆者となった作者の母の体験を伝え、こどもたちへ問いかける。


河出書房新社



**ピース・ブック**  
作・絵:トッド・パール  
訳:堀尾 輝久

「へいわって あたらしい ともだちをつくること…」。アメリカで、平和教育の教材として静かなブームになっている絵本。

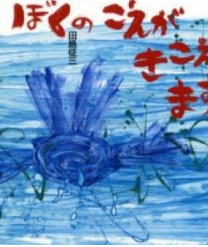
童心社



**光にむかって**  
編:くさばよしみ 絵:やまなかももこ

13歳で被爆し、核兵器をなくすための運動を続けてきたサーロー節子さん。世界中に核兵器の恐ろしさをうったえた、ノーベル賞授賞式でのスピーチが絵本に。


汐文社



**ぼくのこえがきこえますか**  
作:田島征三

戦場で砲弾にふきとばされた「ぼく」の体はとびちり、なくなりました。でも、ぼくの心は弟の怒りを見、母さんの悲しみを見ます。平和を願い、平和を考える絵本。


童心社



**ぼくはなきました**  
作:くすのき しげのり  
絵:石井 聖岳

「自分のいいところ」を発表することになった、ぼく。思い出すのは友だちのいいところばかり。何も見つからず困ってしまいます。

東洋館出版社



**またあしたあそぼうね**  
文:山下ますみ 絵:ささき みお

八歳のはるよちゃん。友達とあそんだあと、またあたと約束したその夜、爆弾がおちた。町も、そこにいた人も動物も、みんな炎に焼かれて…

新日本出版社



 <p>むこう岸には</p> <p>ほるぷ出版</p>	<p><b>向こう岸には</b>          作:マルタ・カラスコ          訳:宇野 和美</p> <p>わたしの夢は、いつかこの川に橋をかけること…。南米チリのイラストレーターが描く、明るい光と笑い声にみちた平和を願う傑作絵本。</p>	 <p>もしものせかい</p> <p>赤ちゃんとママ社</p>	<p><b>もしものせかい</b>          著:ヨシタケシンスケ</p> <p>『いつものせかい』って何だろう？『もしものせかい』って何だろう？大人が読んでも楽しめる哲学を含んだ絵本。</p>
 <p>ちかいの焼け</p> <p>大月書店</p>	<p><b>焼けあとのちかい</b>          文:半藤 一利 絵:塚本 やすし</p> <p>小学5年生でアメリカとの戦争が始まり、東京大空襲の猛火を生きのびたのが中学2年生のとき。焼け跡で誓ったこととは…。</p>	 <p>えんぴつびな</p> <p>金の星社</p>	<p><b>えんぴつびな</b>          作:長崎源之助 絵:長谷川知子</p> <p>わたしの宝物は、シンペイちゃんが作ってくれた鉛筆のおひな様。昨日まで遊んでいたシンペイちゃんは空襲に巻き込まれ…何ともせつない絵本。</p>
 <p>おなじ月をみて</p> <p>ブロンズ新社</p>	<p><b>おなじ月をみて</b>          作:ジミー・リャオ          訳:天野 健太郎</p> <p>少年ハンハンは、窓の外を見てずっと誰かをまっています…少年がまちわびているのは…同じ月の下でおきていることを心に刻む絵本。</p>	 <p>おりづるの旅</p> <p>PHP 研究所</p>	<p><b>おりづるの旅</b>          作:うみの しほ          絵:狩野 富貴子</p> <p>原爆症で亡くなった少女、禎子さん、少女が折り続けた鶴は平和な世界を祈る象徴となり、各地で折られるようになりました。</p>
 <p>きょうというひ</p> <p>BL出版</p>	<p><b>きょうというひ</b>          作・絵:荒井 良二</p> <p>大切なものが消えないように、なくならないように…心に静かに、深く、祈りをこめて…遠い星をながめているような気持ちになる絵本。</p>	 <p>世界で最後の花</p> <p>ポプラ社</p>	<p><b>世界で最後の花</b>          絵のついた寓話          作:ジェームズ・サーバー          訳:村上 春樹</p> <p>世界では今なお、この絵本通りのことが起きています。なぜ戦争がなくなるのか…今こそ読むべき作品。</p>
 <p>戦争が町にやってくる</p> <p>ブロンズ新社</p>	<p><b>戦争が町にやってくる</b>          作:ロマナ・ロマネーシン アンドリー・レシヴ          訳:金原瑞人</p> <p>ウクライナの作家による絵本。戦争に勝つことはできました…でも戦争で失ったものが完全に返ることはなく、体や心に傷を残します。</p>	 <p>せんそうがやってきた日</p> <p>すずき出版</p>	<p><b>せんそうがやってきた日</b>          作:ニコラ・デイビス          絵:レベッカ・コップ          訳:長友 恵子</p> <p>平和なくらしが突然壊される、一人ぼっちになった少女の悲しみと恐ろしさが痛いほど伝わってきます。</p>
 <p>せんそうをはしりぬけた『かば』でんしゃ</p> <p>ひさかたチャイルド</p>	<p><b>せんそうをはしりぬけた『かば』でんしゃ</b>          作・絵:間瀬 なおかた</p> <p>かば電車と皆に親しまれて、多くの乗客を運んでいました。戦争になり、兵隊や兵器を運ぶように…そして爆撃を受けました。今も鉄道博物館に実在します。</p>	 <p>戦争をやめた人たち</p> <p>あすなる書房</p>	<p><b>戦争をやめた人たち</b>          文・絵:鈴木 まもる</p> <p>1914年7月。ヨーロッパをはじめ、多くの国をまきこんだ、第一次世界大戦。フランスやベルギーにせめこむドイツ軍と、迎えるつイギリス軍との最前線で実際に起きた話。</p>





 <p>そらいろ男爵 文:ジル・ボム 絵:ティエリー・デデュール 訳:中島 さおり</p> <p>そらいろ男爵は爆弾のかわりに打撃力のある重い本を投下し、敵を倒します。男爵はあるものを投下し戦争を終わらせました。</p> <p>主婦の友社</p>	<p>だっこの木 作:宮川 ひろ 絵:渡辺 洋二</p> <p>いちょうの木とカズヤ…いちょうは東京大空襲で傷を負い、その後カズヤと再開することに。戦争の悲惨さを考えさせられる絵本。</p> <p>文溪堂</p>
 <p>チロヌップのきつね 文・絵:たかはし ひろゆき</p> <p>きつねの親子が平和にくらしていました。しかし、戦争の余波は、その島にまで…。戦争がもたらした哀しみの深さが伝わってきます。</p> <p>金の星社</p>	 <p>なきむしせいとく 作・絵:たじまゆきひこ</p> <p>沖縄戦にまきこれた少年のせいとく、壮絶な爆撃からの逃避行。多くの子ども、女性、老人が犠牲となった沖縄戦のむごさを物語ります。</p> <p>童心社</p>
 <p>なぜあらしうの? 作・絵:ニコライ・ポポフ</p> <p>争いがエスカレートしていく様子を描いた文字のない絵本。なぜ争いは起こるのか?なぜ争いはやまないのか…最後に何が残るのか…私たちにできることは…心に強く問いかけます。</p> <p>BL出版</p>	 <p>ぼくがラーメンたべてるとき 作・絵:長谷川 義史</p> <p>ぼくがラーメンたべてるとき、地球の裏側ではなにがおこってる?世界の子はなにしてる?遊んでる、働いてる、倒れてる…平和な時間の尊さをかみしめる絵本。</p> <p>教育画劇</p>
 <p>まちんと 作:松谷 みよ子 絵:司 修</p> <p>原爆にきずついた3歳ほどの小さな女の子は、トマトをねだってこの世を去りました。十分に食べ物をあげられない母の悲しさ、戦争の悲惨さを物語ります。</p> <p>偕成社</p>	 <p>わすれないで —第五福竜丸ものがたり— 文・絵:赤坂 三好</p> <p>1954年3月、ビキニ環礁で、一隻のカツオ漁船が水爆実験にまきこまれました。世界で初めて水爆被害を受け、数奇な運命をたどった第五福竜丸の一生を描く。</p> <p>金の星社</p>

- \* 一度に3冊まで無料で貸し出します。
- \* コープ宅配の配達時に商品と一緒にお届けします。
- \* 返却は、絵本がお手元に届いてから2週間程度を目途にお願いします。
- \* 紙芝居もあります。下記までお問い合わせください。



絵本を読まれての感想が寄せられています。こちらをご覧ください。

お問い合わせ・貸し出し申込み先：コープみえ 組織活動推進課

TEL : 059-271-8503 Mail : soshiki@coop-mie.jp

貸し出しの申込みはこちらから →

